

繪本  
實祿  
岩見重太郎

943

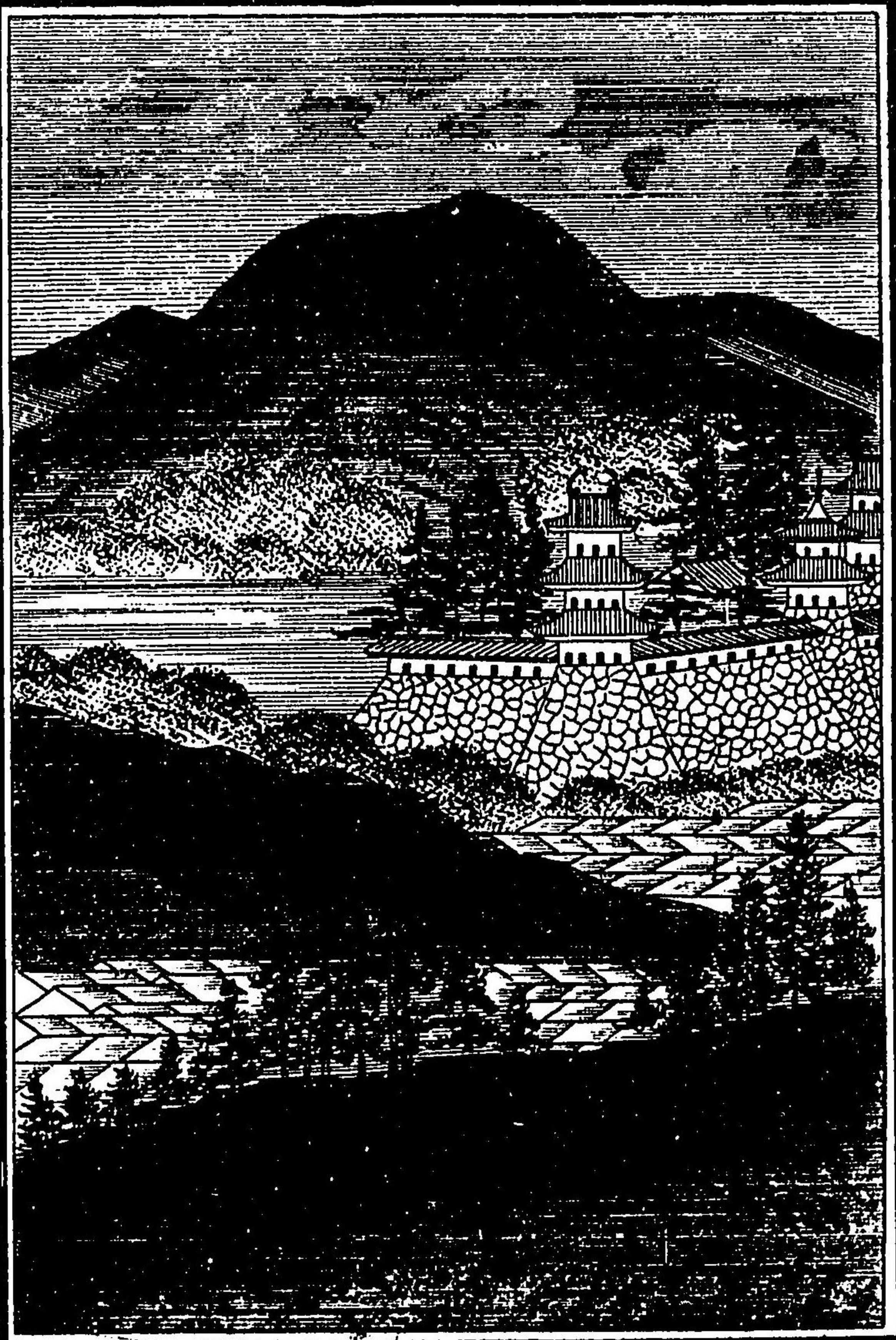


全  
巻  
終  
り





品  
也



源川屋  
板之

二十一年一月十一日  
町文信 2274













山 左 齋  
中 納 然

重太郎



異人





岩見







伴國左門

成瀬権蔵

公手を取り  
 風車のごとく  
 あり廻し真  
 ま投付  
 其身塵  
 と松てあぐ  
 と我が家へ  
 立帰  
 の八人の猫小隆  
 麻やうく  
 のいそ



重蔵

か辻

大八左門

打負  
 形  
 消失  
 即の箱寄八幡  
 宮の祭礼のあり  
 境内の野村等  
 重太郎と朝弄  
 野村等  
 八人連  
 出  
 隆景







岩見



岩見







九

九

昔の頃  
 遊兵三三  
 屋の若かりし頃  
 心と春の夜家内治ら  
 れの事大重太郎と頼  
 んだんはさうせん  
 縁と引分け呉とや  
 ありていかに三浦屋  
 起きよ右村と尋ね  
 回んや我妹の辻



岩  
場

重太郎





岩見

手向いんと妹を  
連出し仙臺  
行  
此の事  
と云ふ人相  
あり討取  
兄弟の  
父の横死  
の事  
小兄妹大の驚  
重太郎其









津田新左  
六権蔵八右衛門  
見果して見頭一  
重太郎



大川左門  
大倉五郎  
島小松  
三人の敵

津田新左  
平八郎  
廣瀬  
後太閤天下  
大倉五郎





と押分り来り口まのたを取扱ひ  
重太郎の気子其後首の奉行持  
行由緒の者  
たしと差出  
誠心勇々  
事もの  
あり

明治十九年八月廿五日御届

編輯者 浅草區新元町十二番地  
出版人 牧金之助



